

歴史的建物の金物 - 12 硝子つなぎ金物・韓国の金物

大平 茂男

1. 硝子つなぎ金物

所沢の秋田家住宅が所沢市により整備活用されることになりました。伝技が毎年春と秋に行なわれた公開に協力してきた家です。何かと会う機会が多くなった秋田さんから、昔は2枚の硝子をつなぎ金物があったとお聞きしました。その時思い出したのが今回紹介する金物です。

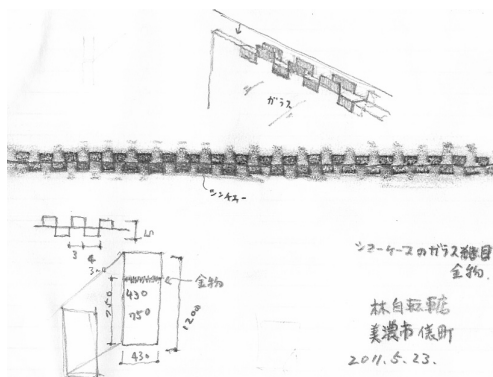
この金物が使われていたのは、岐阜県美濃市の重伝建地区に近い街中の交差点にポツンと残る歴史的建物の商家で、そのショーウインドーの側面にありました。

ショーウインドーは3方が透明硝子でその側面は、幅が43cm、高さが1.2mあるのですが、下から75cmの位置で硝子が上下2枚に分かれ、そのつなぎにこの金物が入っていました。金物を解り易く説明すると次のようですが、作り方ではありません。

材質は真鍮の薄い板で、硝子板厚の約3倍の幅のものを下の硝子のつなぎ面となる上に置き、はみ出た両側の真鍮板を3~4mm間隔で切込を入れ、交互に上下に90°折り曲げ、その上の硝子をご載せませす。



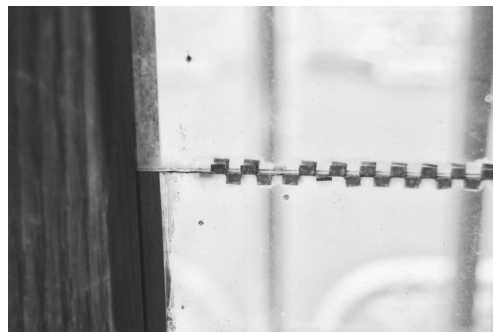
美濃市俵町の交差点にある林自転車店の看板を掲げる商家。軒ウダツのある左側が商店街に面した通りで、つなぎ金物はこちら側ショーウインドーにある



2枚の硝子板の間に、上下に交互に折り曲げた真鍮板を入れてずれないように固定しているが、接着剤は使っていないので雨水は入るとされる



この継手のある側面は雨の当たらない店舗側の軒下



左側の枠にあったと思われる硝子の押縁は欠損